

## 平成 27 年度 特色ある区づくり予算（東区自治協議会提案事業）について

平成 26 年 10 月 27 日現在

事業名	コミュニティ協議会設立の経緯・各コミ協の現状及び方針等のPR事業	主要通り（商店街通り）にネーミング（愛称）を付けよう	「福祉No.1 東区」をめざして	超高齢社会での生き甲斐クラブの創設	見たい聞きたい知りたい東区
事業目的 (期待される効果)	コミュニティ協議会のあり方の検討結果をふまえ、地域住民にコミュニティ協議会制度をPRし理解度を高めることにより、コミュニティ協議会の活性化を図る。	若い人たちが、夢を持って住めるような地域コミュニティを大切にする地域（まち）づくり	1. 児童虐待について委員が学び、地域に還元することにより、東区の子どもたちが心地よく過ごせるようにする。 2. 現在実施している様々な制度を周知しながら、「お互い様」の意識を根づかせる。(ファミサポ、まごころヘルプ)	超高齢化が進む現状、ただ長生きでなく、一人でも多く元気で生き甲斐を感じる生活を提供する事が目的。 結果として、高齢者の医療費の削減、活気ある地域づくりに貢献できる。	これまで自治協議会では、「東区まちな宝箱」や「デジタル紙芝居」など、東区の魅力を紹介する事業を行ってきた。 今後は情報発信だけでなく、見学会（ツアー）を実施することにより、さらに区民が東区への郷土愛を深めることを目的とする。
事業内容	冊子を作成し、配布する。 《内容》 ①コミ協の設立経緯及び法的根拠と支援策の概要 ②東区区内12コミ協の概要と今後の事業などの推進方策 ③他区内のいくつかのコミ協の同内容の紹介 《配布先》 全世帯または配布先を限定	東区の主要通り（商店街通り）について区民から愛称を募集する。 ・商店街の通り、旧7号線、大形駅から県立大学の通り、その他の通り  ・区民、コミュニティ協議会、行政、商店会、学生、その他	①自治協議会委員がひとり親家庭の事情や児童虐待などについて研修等で学ぶ ②子どもの人権等啓発講演会  ③ひとり親家庭へファミサポ、まごころヘルプ（いずれも新潟市社会福祉協議会）への登録と利用促進のための啓発、利用料の補助（東区独自）  社会福祉協議会と連携が必要	自治協部会で素案を作成、各コミ協に提案し、意見や希望を持ち寄り、部会で検討を重ね、県外・他地区での活発な活動等を参考に東区の未来像を創る。 各コミ協を中心に生き甲斐（仮称）クラブを創設。全区内平等に補助金を交付する。	今年度の2部会事業、東区の魅力を伝えるデジタル紙芝居に登場する区内の見どころを実際に回る見学会を企画し実施する。 1日コースを春夏秋冬に1回ずつ企画し、区役所だよりなどで募集して、市のバスを利用し2部会のメンバーがガイド役になり、魅力ある東区を実感してもらう。昼食は区内の飲食店を利用し、参加者にはアンケートに答えてもらう。 夏休みは参加者を親子にして、子どもに感想文や絵をかいてもらい、区長賞、自治協議会長賞、参加賞を設け、賞品を出す。
概算事業費			①②は講師代、③は利用分、通信費		市のバスを利用し、参加者の負担は昼食代のみ
その他 参考事項			東区には公営住宅などがあり、ひとり親家庭が全市のおよそ20%である。そのような環境が虐待数の多さの一因と考えられるとの報告もある。しかし中央区にも近い東区の位置、住宅環境等はひとり親家庭にとって生活のしやすい場所であると考えられる。その環境で親も子も快適に暮らしていけることが福祉No.1の東区に近づく一歩である。		自治協の区内視察を参考にする。
提案者	折笠 正寛	金子 義雄	石垣 順子	田村 征司	和田 澄恵
第1回検討会議での 主な意見	・コミ協のあり方検討の中で、来年度コミ協周知を実施することになっているため、その施策との整合性を考慮する必要がある。  ・コミ協のPRは自治協議会だよりで特集を組むことで対応できるのではないかな。	・道路に名前を付けるだけでなく、その後の事業展開を検討する必要がある。	・すでに社会福祉協議会や地域包括支援センターなど、福祉団体が様々な事業を実施している。そのような中、福祉に関して東区自治協議会が効果的な事業ができるか検討する必要がある。  ・東区独自の補助は、市の制度上難しいのではないかな。	・高齢者の生き甲斐づくりという重要なテーマであるが、社会福祉協議会実施の「地域交流活動助成事業」で高齢者などの定期活動に対して補助金を交付する事が出来るため、すでに類似の事業がある。	・事業の継続性を考慮している点が良い。  ・東区の魅力を区民に周知する効果的な方法であると思うが、実施内容は精査する必要がある。